

特別史跡加曽利貝塚のさらなる解明に向け、今年も発掘調査を開始！**～北貝塚の2つの集落の実像に迫ります～**

千葉市では、特別史跡加曽利貝塚の第3期調査として、57年ぶりとなる北貝塚の本格的な発掘調査を、令和5年度から継続して実施してきました。これまでの調査により、縄文時代後期（今から約4,000年前）の住居跡と推定される遺構や大量の遺物（縄文土器・石器・土偶など）が見つかり、後期の集落が北貝塚にも存在していた可能性が高まりました。

このたび、縄文時代中期と後期の2つの集落の実像解明を目指し、令和7年度までとしていた当初計画を改め、調査期間を令和10年度まで延長することとしました。これに伴い、第3期調査の4年目にあたる今年度の調査を、8月20日から開始しましたので、お知らせします。

1 実施概要**(1) 調査期間**

令和8年8月20日（木）～12月5日（土） 各日9：00～16：00

※日・月曜日、祝休日を除く

※猛暑・雨天等の場合は調査休止。調査休止の場合は、加曽利貝塚博物館ホームページの「発掘調査日誌」で周知します。

(2) 調査場所

特別史跡加曽利貝塚 北貝塚 500m²（別紙資料参照）

(3) 調査内容**ア 遺構の調査****(ア) 柱穴群の調査**

令和5年度の調査で確認した、調査区西側の柱穴群の掘削・精査を行い、遺構の時期や性格を明らかにします。

(イ) 遺物包含層の調査

令和7年度の調査で確認した、縄文時代後期の遺構と遺物包含層の掘削・精査を行い、遺構の時期や性格を明らかにします。

イ 貝層の調査

貝層の上に堆積する表土と遺物包含層を掘削し、貝層の平面範囲を明らかにします。発掘期間中には中学生から社会人を対象とした発掘体験を加曽利貝塚博物館が主催します。

(4) 調査工程 (予定)

8月20日 (木)	調査開始
8月下旬から	環境整備等
9月中旬から	遺構・貝層の調査
11月中旬～下旬	報道機関向け現地レクチャー
12月4日 (金)	掘削作業等の終了
5日 (土)	現地説明会
12月上旬から	記録・養生作業
19日 (土)	撤収完了

(5) 調査実施体制

教育委員会事務局職員 2 人・発掘調査員 5 人・作業員 9 人 計 16 人程度

2 見学者への対応

調査は常時公開しています。また、学芸員・発掘調査員による現地ガイドや現地説明会を下記のとおり開催します。

(1) 学芸員 (発掘調査担当職員)・発掘調査員による現地ガイド「フィールド・トーク」

ア 開催日時

9月8日 (火)～12月4日 (金) 各日 14:00～14:15

※ただし、調査休止日を除く

イ 内容

調査成果の説明

(2) 現地説明会 (令和8年度調査成果の速報)

ア 開催日時

12月5日 (土) 10:00～15:00 (最終受付 14:30)

イ 内容

(ア) 遺跡の説明、調査目的の説明

(イ) 調査成果の説明

※学芸員・発掘調査員による現地ガイド、現地説明会はいずれも参加費無料・事前申し込み不要でご参加いただけます。

3 情報発信

加曽利貝塚博物館ホームページおよび現地掲示板で情報を発信します。

(1) 加曽利貝塚博物館ホームページ

「発掘調査日誌」ページで発掘調査の様子を発信します。(随時更新)

【URL】 <https://www.city.chiba.jp/kasori/research/investigation.html>



(2) 現地掲示板 (毎週更新)

ア 設置場所

発掘調査地点付近の園路

イ 掲示内容

(ア) 発掘調査の目的、概要

(イ) 前週までの調査成果

(ウ) 今週の調査予定

4 報道機関向け現地レクチャーの開催

日程等が決まり次第、現地説明会の詳細と併せて改めてお知らせします。

＜参考＞特別史跡加曽利貝塚の本格的な発掘調査について

1 経緯

平成29年3月に、これまでの加曽利貝塚の発掘調査の成果を取りまとめた「史跡加曽利貝塚総括報告書」を刊行し、加曽利貝塚の全体像を示した一方で、集落と貝層の変遷の把握をはじめ、新たに解明すべき課題も浮き彫りになりました。

そこで、加曽利貝塚の構造や形成過程を解明するため、平成29年度から、第1・2期調査として南貝塚の本格的な発掘調査に着手しました。令和4年度までの6年間で、縄文時代晩期（今から約3,000年前）の集落と大型住居跡の存在が明らかになり、また、中央窪地の成因や貝層との関係についても新たな知見を得ることができました。

南貝塚について一定の成果が得られたことから、令和5年度からは新たに第3期調査として、北貝塚の「集落構造」や「貝塚形成の終焉期」の解明に向けた調査に着手しています。

2 第3期調査について

北貝塚は縄文時代中期の貝塚を伴う集落遺跡として広く知られていますが、貝層や住居跡、小竪穴や土坑などの遺構の分布や時期的な変化、すなわち集落の構造についてはいまだに多くの謎に包まれています。そこで、令和5年度から実施している第3期調査では、北貝塚の現状に鑑み、「遺構の分布確認」と「貝層の堆積状況の確認」そして「旧調査地点の再発掘」を調査の具体的な目的として掲げています。

令和7年度までの調査では、昭和37年と同41年に調査を実施した2カ所の旧調査地点の位置を確認したほか、縄文時代後期の所産と推定される遺構や遺物が多数見つかり、北貝塚にも後期の集落が存在していた可能性が高まりました。

そこで、後期と中期の2つの集落の実像を解明するため、令和7年度までの当初計画を改め、令和10年度まで調査期間を延長することとし、今年度は第3期調査4年目（延長1年目）の調査を実施します。